2008年3月号s 08.4.7 4:16 PM ページ1

平成19年度

鶴の里懇話会

1/18 廻堰文化センター　1/25 横蒔ふれあいセンター　1/29 あやめふれあいセンター

1/31 農村環境改善センター「豊明館」　2/4 境・胡桃舘ふれあいセンター

町では「鶴の里懇話会」を町内五会場で開催し、町民の方々から広く町政に対する貴重なご意見・ご要望をお聞きしました。その中から一部を紹介します。

Q 町村合併の今後の動向について知りたい。

A 【総務課長】

新合併特例法は、平成十七年四月一日から平成二十二年三月三十一日までの五か年の時限法となっており、旧合併特例法にありました合併特例債の優遇措置はどこへ合併してもなくなりました。ただ新合併特例法の場合、期限内（五年）に合併するならば合併特例債はないにしても、合併に必要と認められる道路や電算システムなどが対象となる合併推進債などの財政支援が受けられます。

地方自治体においては、主要財源である地方交付税制度の算定方法に人口と面積割が導入され、人口規模や面積の小さな自治体ほど不利になる要件になっており、国県の指導による「集中改革プラン」に基づき行財政改革を推進し、効率的な財政運営に懸命に取り組んではいるものの、新たに地方自治体財政健全化法が制定され財政指標が制度化されたことから、一定の財政基準を下回ると早期財政再建団体に指定を受け、行財政運営に制限がかかるなど、予想以上に国の締め付けが強化されています。この判断基準は、自治体の財政規模の大小にある訳で当町の場合、これまで五億円余りの交付税削減が続いており、財政規模が縮小しております。これ以上になりますと住民サービスの削減あるいは各種使用料、手数料の一層の住民負担を求めなければなりませんが限界がありますので、このまま自立を継続していくのは相当困難な状況が現実味を増しております。このような状況にかんがみ、町民の幸せを第一義に考えますと合併が当町にとって最良ではないかとの認識に立ち、飛び地合併ではなく隣接する市町との合併を念頭に平成二十二年三月までが新合併特例法の期限でありますので議会をはじめ、町民の意見を伺いながら進めたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

Q 少子化に伴う福祉施設（保育所）などの改善策について、公益の後退につながらないように配慮しながら、鶴田町としてとるべき道とは。

A 【保健福祉課長】

少子化による入所児童の減に伴う保育所の入所定員の見直し（引き下げ）についてのお尋ねのようですが、現在町内には公立の保育所は一か所、法人の保育所は六か所の計七か所で運営されております。入所定員は全体で四百六十人で、入所児童数は他市町村の広域入所を含めると四百八十七人となっており、定員を二十七人オーバーしている状況にあります。定員オーバーについては、待機児童の解消のため国の施策で四月は15％、五月からは25％の定員オーバーが認められているところであります。各保育所の入所児童数を見てみますと、公立の中央保育所が六十五人で五人の定員オーバーとなっており、法人の各保育所については、二か所が定員を大きく下回っており、ほかの四か所は定員を上回っている状況にあります。定員の見直しについては入所児童数を考慮しながら各法人が決めるべきものと思っておりますが、定員の引き下げについては将来的にも入所児童が定員を大きく下回ることが予想される場合に認められるとのことであります。

Q 廻堰の保養センターを農村ツーリズム、体験学習などの宿泊中心施設にする。日本一のスチューベン、リンゴ、溜池の魚釣り、田植え、野菜など、道の駅「あるじゃ」の活用、Tシャツで鶴田を全国に発信する。

A 【産業観光課長】

近年、農家民泊などによる農業や漁業体験を含めた観光、グリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズムの取り組みが見られるようになってきました。当町においては、農家民泊は無いものの、サクランボやリンゴ、ブドウ狩りができる観光農園への取り組みも見られてきておりますが、まだほんの数件であります。町としても、この観光農園に取り組んでいる農家や団体による組織化も検討しているところであります。今後は廻堰大溜池や鶴の舞橋などの観光資源と町の基幹産業である農業を組み合わせた農業観光にも、いっそう力を入れてまいりたいと思っております。そのため、道の駅「あるじゃ」も含め、保養センターがその中核となす施設として、効率よく参画できる方向性も探ってみたいと思っております。

Q 町で二、三か所下水道工事が行われています。マンホールの蓋の件ですが、現在の品は鉄製の物と思われる。鉄物は金額的に安いでしょうが、冬の場合熱が伝わりやすいため雪が溶けて穴になり交通にあたり危険のように思う。マンホールの蓋に雪が溶けにくい品を検討してみてはいかがでしょうか。

A 【建設整備課長】

マンホールの蓋は特殊なものを除いて、低価格で耐久性のある鉄製の蓋を多くの自治体で使用しております。鶴田町でも、当初から安価で耐久性のある鉄製のものを使用しております。今のところ、この鉄蓋に替わる安価で耐久性のある製品は見当たらない状況です。さて、マンホールに熱が伝わり雪道が穴になるとのことですが、一部の個所ではマンホールの蓋の裏に発砲スチロールの断熱材をセットして、熱が伝わりにくくし、道路に穴ができないようにしております。今後とも道路の利用状況に応じて必要な個所には断熱材をセットし、通行に支障が出ないように対応したいと考えています。

Q 他町へ行って感じたこと（板柳町、鰺ヶ沢町、藤崎町）有線で時間のお知らせ（朝、正午、午後六時）や、何か起きたとき（災害、火事など）有線放送で全町へお知らせしています。わが町では広報車で回ってお知らせしているようです。有線があれば、広報車で回らなくても全町へお知らせできます。旧町内には有線の設備がありませんが、部落には大半あるようです。これを活用していけば良いと思います。旧町内に有線設備を設置すれば、多少経費がかかると思いますが、長い目で見れば町民のために良いと思います。板柳町の場合は、消防署にその有線が設置されております。何十年も前から設置されているようです。鶴田町では、火事の時、消防署のボンだけ鳴って、どこの町内かわかりません。板柳町は「〇〇町内で火災発生。ただいま延焼中」と放送され「〇〇時に鎮火されました」と放送されました。消防署は二十四時間勤務でありますから良いと思います。

A 【総務課長】

旧町内に有線設備の設置要望ということでありますが、有線放送設備は町内に十六施設あり、それらにつきましてはもともと個々の集落で独自に設置したものであります。また、まったく設備がない集落もございます。以前にも同様の要望や設備の更新などで助成要望がありました。確かに有線設備があると何かと便利なことは理解できますが、それぞれの集落で対応していただいておりますのでご理解願います。また、町の広報車による巡回については、日ごろから職員にも広く当町における地理地形の特性を理解していただくため、区域を分担しながら巡回する体制をとっております。

A 【消防署長】

ご意見のとおり、災害などの情報は、いち早く町民の皆さまへお知らせする必要があると考えます。ただ、火災時については、その放送を聞いた多くの町民が、現場によっては消防車より先に駆けつけることがあるため、消防車両の進入また消火活動の妨げになり、今は放送をしていないところもあるそうです。また、消防事務組合では二十年ほど前からサービス電話として（☎34―2323）へ問い合わせいただけると、火災などの情報を聞くことができますので、参考までにお知らせいたします。

Q 新年を祝う会について、町民が一堂に会し町長さんを中心にして、町の発展を祈願し町民一人一人の健康と多幸を祝う行事はすばらしい。会費の二千円も適当かと思うのですが、お土産の心遣いは、いかがなものでしょうか。財政逼迫している今日、少しでも支出の削減を思ってしまうのです。

A 【企画課長】

新年を祝う会は、町民皆さまのご多幸とさらなる飛躍を祈念する年頭に欠くことのできない行事と認識しております。ご意見のとおり、地方分権が進展し当町においても交付税の削減や税収不足等で厳しい財政運営を強いられている状況にありますが、お土産については新商品のPRなどで特産品の地産地消と消費拡大の一助と考え実施しておりますので、ご理解いただきたいと思います。